

選手直前インタビュー 俺の出番だ!!



萩原孝之

(静岡/80期)

1年以上優勝してないので、まさか推薦で選ばれるとは思ってなかった。誘導だなと思ってたんですけどね。コロナで2カ月近く空いて、そこでまとまった練習ができたのが良かった。今が一番点数があるぐらいだし、このまま本番にいきたいですね。

大石剣士

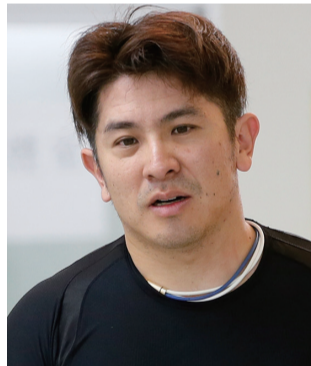
(静岡/109期)

今年の前半はボロボロだったけど、開催中止の影響で練習量を増やした成果が出てS級初優勝することができた。自信になりましたね。弥彦記念では上位とも戦える手応えもあった。初めてのビッグで、今の力がどこまで通用するのか試したいし楽しみ。



島川将貴 (徳島/109期)

オールスターでは②①着で準決に駒を進めると、果敢に駆けて同県原田研の勝利に大きく貢献した。持ち味の自力攻撃は更に破壊力を増した印象だ。今の脚勢なら今大会も大暴れが期待できる。



皿屋豊 (三重/111期)

ビッグレース初参戦だったオールスターでは勝ち星こそなかったものの⑤②⑦③着と2回確定板入り。最終日は単騎ながら逃げて粘っている。仕掛けがツボにはまれば一発がありそうだ。



雨谷一樹 (栃木/96期)

本業の競輪ではあまり結果が出ていなかったが、6月川崎で久しぶりの優勝を飾ると、その後も予選、準決は勝ち星が多い。ビッグレースは約2年ぶりの参戦なので未知数ながら軽視は禁物だろう。

ガールズケイリンコレクション2020 伊東温泉ステージ

9/21 (最終日) 9R

1月のトライアルを勝ち抜いた7名による決戦。女王・児玉碧は不在な中、安定感一番の石井貴子が主役に推すのに最も相応しい。今年の戦績自体は高木真備、梅川風子と互角も、何よりビッグレースでの実績、勝負強さは他の追随を許さない。ガールズドリームレースを制して賞金ランク2位まで上がり、グランプリ出場も確実となったが手綱は緩めない。7月から続くビッグ第3弾も自力を基本に、何でもできる巧者ぶりを発揮。勝てる位置を確保してのタテ脚勝負で決着を付けよう。

今年はずでに昨年を上回る13Vを挙げて賞金ランクトップに立つのが高木だ。開催休止期間の練習の成果でトップスピードが上がり、5月以降の普通開催は8戦中7戦が完全Vという凄さだ。ビッグレースもフェスティバルで完全優勝している。最終バックを取っての先行、まくりで勝ちが大半なのも充実の証。好きなタイミングで飛び出して主役を奪うか。

ナショナルリチーム入りし、ガールズ屈指のスピードをさらに磨く梅川の一撃も怖い。アルテミス賞も含め、男子並みの上がり11秒台をコンスタントに叩き出すまくりの破壊力は言うことない。勝つ競走に徹すれば面白い。

ダービーでの開催は中止となったが、改めてホームの伊東で行われることとなり、鈴木美教もテンションマックス。8月以降は3連覇している。混戦ならしごとく伸びてきそう。

石井寛子、大久保花梨、柳原真緒も何ら見劣りせず、レース判断次第で台頭十分だ。

